

# 吉岡 たけし

さんの

強い絆・地域力で  
県政再起動！

暮らし満足度 No.1 の垂水に。

政策討議資料

## 自民党



参議院議員

末松信介 前政策秘書

垂水区・生声プロジェクトリーダー

県政 対策委員 垂水区

発行：自由民主党兵庫県神戸市垂水区第一支部

〒655-0034 神戸市垂水区仲田 1-8-24-101 TEL (078)708-8600 FAX (078)708-8610

LIBERAL&DEMOCRATIC

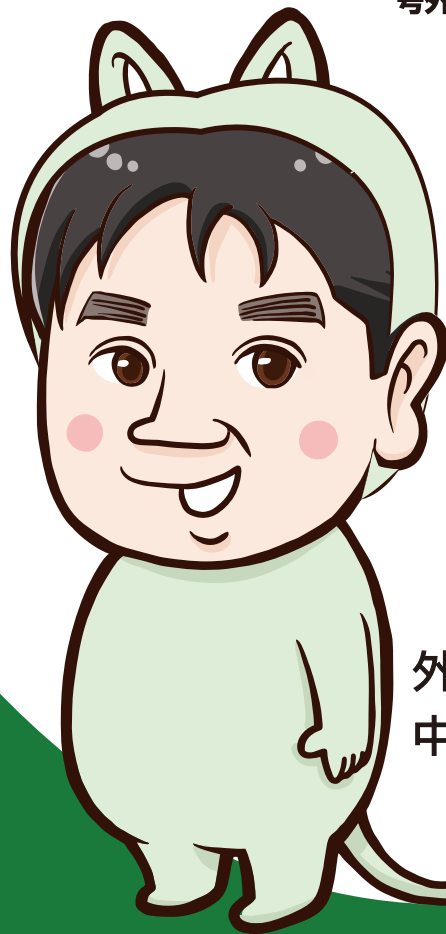
号外

# 自由民主

## 垂水の政策！！

吉岡たけし特集号

# 熱血



外見は“ムーオン”  
中身は“熱血”の  
“よっしー”です！

# “生の声”を力に！

早いもので、あの、阪神淡路大震災から20年の歳月が経過しました。

吉岡たけしさんは東京の大学に入学し、その後サラリーマンとして東京、神奈川で生活していました。

あの朝。吉岡さんは、「ああ、両親ともひょっとしたら、もう永遠に会えないかもしれないな」との覚悟を覚えたそうです。吉岡さんの直属上司は地元が兵庫で、神奈川に単身赴任中でした。故郷を同じくする上司と、不安な気持ちを振り払うためにも、一心不乱に仕事をこなしたそうです。

当時吉岡さんは神奈川県横浜市で、地域活動に邁進しておりましたが、震災が起き、実家の塾が被災し、壊滅。「生きる希望を失った。もう駄目だ。助けて。」という両親の悲痛な声を聴き、関東での活動を断ち切り、地元に戻ることを決めたのです。勤務先の千代田火災に神戸への転勤を申し出、震災の翌年春、神戸支店に転勤となり、地元兵庫県に戻ってきたのです。吉岡さんは「兵庫でやり直そ

う、まだ30過ぎだ、しっかりしろと自身を叱咤激励しました。20年前ですが、まるで昨日のこのように思い出されるんです」といいます。自分の人生の転換点、地元で歩むことを決めた決断。

客観的にみて、その決断は正しかったのだらうと思われま。地元の、“生の声”を力にしていこうという吉岡さんのスタイルを確立させることができましたのですから。やはりこれは、ふるさと兵庫県だからこそ、そして復興の大変な時期だったからこそ体験出来たのでしょう。関東にいたときはどことなく知識先行、理屈先行になりがちだったという吉岡さん。“生の声”を力にする、「皆の目が輝く兵庫県にしたい」という思いで突進する、熱血型の男としての政治スタイルを20年掛けて作り上げることができたのです。



## 大転換期の責任世代！！

今の兵庫県政に必要な視点は大きく2つあります。まず1つ目は、当面のアベノミクス、特にローカルアベノミクスの成功。地方経済は国の経済の7割を占めており、安倍政権も地方創生を重視しています。しかし、黙っていても国が何とかするといった政策ではなく、「熱意と創意工夫のある自治体を、国は全力で支えます。」というものです。ですから各自治体が全力で、真剣勝負で臨まなくてはなりません。まさに国、兵庫県、神戸市が、今までにない太いパイプで貫かれ、政策の一体感がこれまでにない程求められる時なのです。県政においても、政権与党・自民党の責任と役割は大変

重いものがあります。どのようなビジョンを描くかということです。医療、介護、年金、子育てなどあらゆる制度は人口増、高い経済成長という前提でつくられました。そうした仕組みもあらためて作り直す必要があります。また、明治維新以来の東京一極集中の仕組みも作り替えなくてはなりません。

大転換です。時間がかかります。いきなりガラッと世の中は変わりません。この転換期に主役となるのは、40・50代の、様々な経験を積んだ、働き盛りの世代。その世代が、新しい兵庫県、神戸市をどうやってつくり上げるのか、必死に考え、行動していかなければならないのです。この日本の大転換期において「責任を持てる世代」なのです。

その「責任を持てる世代」、「生の声」を力にする吉岡たけしさんに、兵庫モデル、神戸スタイルの構築という大役を担わせてください。

任と役割は大変重いものがあります。

2つ目は、人口減少と少子高齢化を迎えた今、将来に向け



## 20年前、震災の年からの思い。